

夏に向けて、蚊の発生対策をお願いします！

夏が近づき、野外などでイベントが増えるにつれ、蚊に刺される機会も増えてきます。近年、海外では、病原体を持った蚊に刺されることにより病気になるデング熱やジカウイルス感染症などの「蚊媒介感染症」が流行しています。また、海外からの渡航者ならびに海外からの帰国者が、海外で感染し、日本で発症した事例も報告されています。平成28年は、大阪府でも35人の方でデング熱を、1人の方でジカウイルス感染症を発症した報告がありました。全て海外で感染した方でしたが、発症している人が日本で蚊に刺されると、その蚊によって国内で他の人へ感染が広がる可能性があります。今の時期から、蚊に対しての対策をお願いします。

● 幼虫対策（8月下旬まで）

庭先、家の周りなどには雨水がたまる植木鉢の受け皿、バケツ、空き缶やペットボトルなどを放置しないようにしてください（ボウフラの発生源をなくすため）。

● 成虫対策

まめに草刈りをするなど、蚊が潜む場所を減らしましょう。

● 蚊に刺されないために

家屋内に浸入することもあるため、防虫網などによって蚊の侵入を防ぎましょう。草むらなどに入るときは、肌の露出しないような服装で、長そで、長ズボンの着用をしてください。虫よけスプレーや蚊取り線香の併用も効果的です。

	潜伏期間	症状
ジカウイルス感染症	2～12日	発熱、発疹、関節痛、結膜炎等があるが、症状が軽いか無症状であることも多い。妊婦が感染すると、胎児の小頭症を引き起こすことがある。
デング熱 チクングニア熱	2～15日 (多くは3～7日)	突然の高熱(38度以上)、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹、結膜炎など
マラリア	(熱帯熱マラリア) 1週間～3週間 (その他のマラリア) 10日～4週間	発熱、悪寒、戦慄、頭痛、全身倦怠感、時に腹部症状や咳、重症では脳症など。
日本脳炎	6日～2週間	発熱、消化器症状、全身倦怠感、意識障害、けいれんなど

潜伏期間とは：蚊などに刺されてから症状がでるまでの期間